

令和7年度 あいの里西小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22025

実態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇「自分の学びをプロデュースできる子」の育成を目指して、子どもが学びのコントローラーをもつために、どのような教師の関わりが必要なのかを考えてきたことで、昨年度よりも共通指標アンケートの肯定的な回答の割合が高くなった。特に、「人の意見を聞いて、それを参考にしてもう一度考えてみるがある」の項目においては、8割以上が肯定的な回答を示しているため、他者と関わることで学びを深めていることがうかがえる。	◇共通指標アンケートにおける、「一日の時間の使い方を自分で考えて生活している。」の項目については、昨年度よりも増加してはいるが、どの項目と比較しても一番肯定的な回答の割合が低い。 ◇「読書が好きだ。」における肯定的な回答の割合が、学年によって差があり、8割に届かない現状がある。

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題

◇共通指標アンケート「人の約に立つ人間になりたいと思う。」の項目に肯定的に回答した割合が9割を超えていることから、他者意識が育まれてきている。「自分が必要とされていると感じる。」の項目について肯定的に回答した割合が、昨年度よりも1割以上も増加している。異学年による読書活動やなわとびの交流、遠足でのふれあい、子ども同士による行事前後の相互評価の場を設定したりしてきたことが、自己肯定感の高まりに寄与していると考えられる。

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自分の学びをプロデュースできる子

取組	AAR サイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自主的な活動の充実
	◇「子どもが主語になる授業」の実現 ・子どもが見通しをもって学びに向かうためにイントロダクションを含めた教材化を工夫する。 ・「もっと～たい」「他者と関わりたい」といった思いをもち、子どもが自ら学びをコントロールするために教師の立場を意識しながら適切に関わる。 ・自立した学びに向けて、単元を俯瞰で捉えて学びの積み上げをする意識をもつ。 ・子どもに委ねる場の設定の工夫と、内容のバランスを吟味する。 	◇学級活動の充実 ・自主的、実践的に行動できるよう、カリキュラムを見直して学級活動の時間を保証する。 ・全校で話し合い活動の充実を図り、自主的に活動するための土壌をつくる。 ◇目的を意識した児童かい活動の充実 ・どんな学校にしたいかを明確にして、各委員会同士が教師の指導の下、連携をとりながら進めていく。 ・クラブやふれあい活動において、相手意識をもち、自分の役割を自覚しながら活動できよう関わる。 

〈本プログラムの実行に向けて〉

